

4 もうお小遣いとは呼ばせない

(p.14~17)

<授業での活用例>

将来の自分の消費生活を想定して、収入・支出家計管理の基本的な考え方を知るために活用する。実際に手に入るお金と支払うお金のおおまかな目安を知り、金銭感覚を養うことを目的とする。また、それを通じて、将来の自分の進路について、何を重視したいか考えるきっかけとするのも良い。

<補足解説>

●Q1の補足

SMBC コンシューマーファイナンス株式会社が実施した「20代の金銭感覚についての意識調査 2018」では、以下のような結果が出た。

毎月自由に使える平均額（対象：1,000人）		
対象	理想（使えたら満足できる額）	現実（使える額）
20代全体	61,777円	32,224円
未婚者	67,951円	35,411円
既婚者	42,648円	22,351円

現在貯蓄できている平均額（対象：1,000人）	
対象	金額
20代全体	116万円
20代前半	62万円
20代後半	169万円
未婚者	104万円
既婚者	153万円
会社員	147万円
パート・アルバイト	130万円
学生	66万円

Q1で、具体的な金額が想像しづらい生徒がいる場合、上記の結果を参考として示すのも良い。

●Q2の補足

①就職の際に何を重視するか

ドリル p.14 で扱っている給与明細の金額は、あくまで一例に過ぎず、業種・職種・企業によって得られる収入はさまざまであることを生徒に理解させたい。収入に関連付けて、将来の自分の職業を考える際には、次の資料を活用しても良い。

あなたが企業選択をする場合、どのような企業が良 いと思いますか（2つ選択。上位5項目）	
項目	割合
自分のやりたい仕事(職種)ができる会社	38.1%
安定している会社	33.0%
給料の良い会社	15.4%
社風が良い会社	14.1%
働きがいのある会社	13.7%
勤務制度、住宅など福利厚生の良い会社	13.7%

（「2019年卒マイナビ大学生就職意識調査」より）

なお、この調査結果について、最近の約20年間の推移を見ると、「安定している会社」や「給料の良い会社」の割合が増加する一方、「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」や「働きがいのある会社」の割合は減少傾向にある。

②自営業の場合は年金に加入できるか

将来自営業を希望する生徒も想定される。収入は売り上げによって大きく左右されるが、以下の2点は最低限教えておきたい。

・収入の仕組みが会社員等の給与とは異なる

自営業者の手取りは、売り上げ等で得た金額から、商品の仕入れ費用や経費（社員への給料を含む）、税金等を引いた金額である。

・年金制度の仕組みが会社員等とは異なる

自営業者は、会社員等が加入する厚生年金には入れない代わりに、国民年金基金や個人年金基金、確定拠出年金（個人型）などを利用する。

・確定申告が必要になる

確定申告とは、個人の1年間の所得にかかる税金を計算して税務署に書類を提出し、申告・納税することである。自営業者のほか、配当所得がある人、年間給与収入が2,000万円以上の会社員、年の途中で会社を退職して年末調整ができない人などは、確定申告が必要である。

●Q3の補足

奨学金の毎月の返還額は、日本学生支援機構ホームページにて算出した。条件としては、第二種奨学金を利用して大学4年間で計2,500,000円を借り、15年間かけて返還する場合を想定している。貸与利率は「利率固定方式」と「利率見直し方式」のうち、後者の平成30年度の数値である「0.01%」で、入学時特別増額貸付奨学金や増額貸与金額、機関保証制度などは利用しないことを想定している。